



# みよし

発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田村 泰 教

秋田市広面字赤沼3の2

電話 (018) 834 3443

F A X (018) 835 6864

<http://www.miyoshi.or.jp>



## 秋祭り案内号

上の写真は里宮境内から撮影した三十五年  
余前と現在の広面の写真である。かつて豊  
かな田園とどかな風景が広がり、藩主佐  
竹公が船を浮かべた別荘地の名残りを留め  
ていたこの地は、急激な変貌をとげ今では  
その面影もない。大きな道路が縦横に走  
り、スーパー・店舗が軒を連ねる新興住宅  
街は利便性も良く、確かに現代人にとって  
住み易い街へと発展した。しかし、その  
開発の陰で我々は豊かな緑や地域の繋がりを  
失い、この地区への愛着心や歴史伝統へ  
の理解も稀薄になりつつあるのではないだ  
ろうか。子どもの頃、野山を走りメダカ・  
フナを追ったこの地は、田舎なりの豊かさ  
に溢れ、今よりも誇れるものが多かったよ  
うな気がしてならない。情報やモノが複  
雑に行き交う現代は、懐古の情や牧歌的な  
気分だけで生きられる世の中ではない。し  
かし、そんな多忙な時代だからこそ、時々  
は心の中の原風景を思い返し、より良く生  
きることを意味をゆっくりと考える時間が  
必要に思う。

## 責任役員随想

## 開山祭に添うて

責任役員 佐々木 孫兵衛

過日、七月十七日は、三吉神社開山祭が斎行され、御神体を奥宮遷座の大役の日でした。この時季に避けきれない雨を案じていたが、この日も雲広く暗い。神事に参加すべく、神社裏参道、武道館側についた頃いよいよ本降りとなっていた。

ふと武道館前の広い草庭の雨のなかに、四つん這いになり草取りをしている女の方に気付く。労いの声をかけますと、「このお婆さん日頃、三吉さまの信仰厚く神社礼拝はもとより、諸行事参加は欠かすことのない篤行の方です。雨も本降りですし、後日の作業方をおすすめしても納得いたゞけなかつた。

この小さな雨合羽は、無性に尊いものに思え、誰に見られるも好まず、神在るを信じ、いささかの孤独感も持たず一人、仕事をすゝめてゆくこの方こそ、信仰に生きるまことの姿と教えていたゞき胸熱くしたのです。

この感動のまゝ、山開神事に末座する。まづ祭始の太鼓、笙等の神楽、斎場を清々しく浄め、お抜いの幣、幽かな神韻を頭上に残して終る。つづいて神饌の献儀、数々を厳かに運び継がれ、神迎いの御鴻声(おー)神霊を招致する。霊鎮まる静かさに、宮司の祝詞、厳かに奏上され、私達の祈り神に召されしと、まこと安らかである。

この間終始笙鼓の楽にはこぼれ、超自然的な巨きな存在と、私達の関係が意識され、強まるような氣にさえなるのです。日頃の不安が、この機会に解かれ、清々した自信

の湧いてくるを知ります。更に神楽、三吉の装い神々しき獅子舞いによって、参加者の装具、身廻品などを清め荒々しくも厳かに終る。

社殿にはすでに山伏姿の神職さんはじめ登拝者一行の白装束が凛々しくも神々しい。雨はいよいよ本降り、雨のなかの攀途のご難儀を察して只管、安全なれを祈る。またご神霊、奥宮動座と共にこのお守りに、崇敬登山者のお世話に当られる神職、並びに協力者各位の参籠の苦勞を深く深く察しあげます。

このような厳肅な一行をお見送りしながら、かつて若かった頃の登山を思い出す。とき(支那事变の真最中で私など兵籍が決していた)腕白連、四、五人で夕食後の談議で太平登山を決め、木曾石より登山する。まづ金山滝にかゝる急坂を登りついたあたり、滝音が暗のなかから響き、地鳴りとして伝って来る。神秘そのものの向うから灯りが揺らいでくる。不気味に見守っているうち、それは滝籠りの婆さんとわかり安緒する。力餅など準備し前嶽へ登攀する。

前嶽を過ぎやや平坦な道の中嶽へと進む。途中、修験色強い謹厳な一行と合流する。一行は道辺の埋れている石佛かに祈りを捧げながら時折り「六根清浄」を唱えるので、真似言の「六根清浄」を唱和して中嶽、奥嶽へと登頂する。奥嶽へ登り切ったときは、お日さまは、すでに山を離れていたが、なんと大きく、そして潤み、神さまとははの錯覚を持つなど思い出鮮かです。

後日「六根清浄」を知るに各々の感覺器官であり、これら清くけがれないよう健かなれと祈る法華經に因しているを知る、神聖なお山参りの修行に、心身が清らかになることを念じ、安全な登山を祈願する意味とも解され、私など、一生に一度唱えた「六根清浄」の意義の深さ、そして重さにつたれている。

昨今は六根ごとごとく衰退し、無能にありますが、戦時を通じ、八十余才の今日在るは、そこに見えない巨きな存在が意識され、それが祖であり、神であるをおもい感謝の日々にあります。

## 神武館だより

## 「武道館に行つて」

少年部コーチ 猿田健一

私が、神武館道場少年部のお手伝いを始めてから、5年目になる。今の六年生が、三年生の時、高橋泰明君が欠場、四人で、低学年で秋田市大会で初優勝。以来、誰一人もやめることなく、すくすくと成長し、仲良く育ってきた。今年の春先、力を出せない試合が続いたが、飛鷲旗では実力を発揮し優勝。5月の全県大会で、初めて高学年で三吉道場が全県制覇、田村道場も見事に準優勝に輝く。武道館への特等席のキップを持つて、7月27日、我等は朝一番の「こまち」で出発した。武道館行きは、私の永年の夢であった。

4時間後に着いた「東京」は、暑かった。後菜園から歩いて、富坂警察署道場で早速稽古する。稽古着と防具を着けているだけで、汗がポトポトと流れ落ちる。三吉は全く心配ない、田村はやや不安もあるが本番での実力発揮を期待できる。道場を快くお貸し下った警察署の皆さんに深く感謝したい。夕方、会場を下見。明日に備

えて早めに休むが、修学旅行のように入場券を並べた12人の男子が寝静まったのは、大分遅い時刻だった。有り余った元氣、試合で出せよう！翌朝4時半、お父さん達が、場所取りの準備で始動。選手達も会場入りし体を動かす。入場行進では、本部席真ん前に整列できた。第12コートで三吉（先鋒 中山英樹 次鋒 藤原森彦 中堅 高橋泰明 副将 小西一徳 大将 西島大輔）が第3試合。相手は愛知県の鶴城小学校。基本練成（切返し、打ち込み稽古の判定）で予想外の苦戦をしている。何故だ？後半の一本勝負の試合で、逆転は？結果は基本6対9。一本勝負は1対1で引き分け。結果、初戦敗退となった。信じられない。選手達は、皆悔しさで涙を浮かべていた。気持ち切り替え、第10コート第5試合の田村（先鋒 谷安弘 次鋒 嵯峨育也 中堅 森下元氣 副将 小野紫織 大将 細部 樹）に期待をかける。高橋一先生が大きな声と動作で、基立

ちをなされ、選手達も引き出される様に打ち込みでいく。森下、小野は声も打ち込みも大きい。身震いがした。結果、基本練成8対7、一本勝負1対0で、見事に勝ち上がる。次は、有隣館道場（栃木県）。やった！初戦を勝る動きで、基本練成10対5、一本勝負1対0で勝利して、今度は、通常の3本勝負のみの第3試合に移る。相手は、鹿島少年剣道教室（石川県）。結果は、2対2（本数負け）であと一步のところで惜敗した。しかしながら、三吉の分もよく、健闘してくれた。よし、明日の「全日本少年剣道練成大会」に賭けるぞ！

前日の宿舎から市ヶ谷へ移動。翌朝5時には、先発隊が出発。会場まで、長い長い列ができる。参加チームなんと40チーム。皆、武道館目指してやってきたのだ。選手達は、前日より、緊張していない。三吉は、初戦 大分県 宗方少年剣友会を4対1、2回戦 高知県 早明浦少年剣道を5対0で下したが、3回戦 愛知県 南区少年剣和会に1対3で敗れた。田村は1回戦 茨城県 明信館を3対1で下したが、2回戦 岐阜県 獅子吼会に3対1で破れた。翌日、西島大輔君が、個人戦に出場、全国大会で好成绩の岐阜県明珠館道場 各務絢揮君と対戦。

勝負では敗れたが、一步もひけを足らない堂々の戦いぶりであった。（菅野先生、嵯峨さん談）団体戦を終えた一行（選手その他、鎌田雄平、佐々木輝介、高橋龍介を加えた）は、東京駅で、夕食をとった。帰りの車中では、大人達は、短くもあり、長くもあつた出発からの時を振り返りながら、お互いを慰労しあつた。本当にお父さん達のチームワークは素晴らしい。子供達は、まだまだ元氣にトランプ等で楽しんだ。秋田に近づくにつれ、声も静まっていった。神武館の東京での夏は終わった。

後日、試合のビデオをみて神武館の剣道も随分変わったなあーと改めて感じた。同時にかつての「まっすくな剣道」の影が薄くなつたように感じられて、正直淋しさも感じた。この夏、共に稽古をした子供達と武道館へ一緒に行け、東京でも一緒に汗を流せたことを生涯の大事な思い出とした。そして、何よりもこのチャンスを与えてくれた子供達の努力に感謝を込めて一杯の拍手を送りたい。ほんとうにありがとう！最後に、私たち門下生に素晴らしい道場をお与えくださり、いつも力強いご支援を送りつけて下さる田村館長、三吉神社社中の皆様から、感謝を申し上げます。

地元シリーズ

宇留井谷地太平山三吉講

高橋 秀造

私の生れ育った所は、雄物川文化の流れと共に、船頭の村で、上り下りの舟を漕ぐ若衆が出て、秋田へ大曲湯沢方面へと荷物を届けたり、イカダ流し等、川に関係する仕事をしてきた所と聞いております。

又、北前船の乗組員として大阪方面に行ってきた話も、伝説として数多く語り継がれて残っております。その一つに、氏神様にはさまさまの神様が祀られておりますが、太平山の石碑が数多くあります。文化・文政・明治・大正と、

その時代々に航海の安全と、力の神様としての太平山三吉信仰が自然に深かまったものと思われま

す。私の家に伝わっている物の中に「嘉永七年五月廿三日」の幟りと「太平山三吉大権現」の掛軸があり大切に致しております。

我家では先祖代々、太平山三吉神社に参拝し、ご加護を受けてまいりました。私の父親は二十一年間、お盆の十三日に村人をつれて登拝しました。

頂上には仙北郡千屋村の人が奉



納した鉄の笠（七十二キ口）があり、話では相撲の元横綱の照國関が序ノ口時代に、里宮から祈願して背負って頂上に上げた笠だから、若衆は登拝したら被って見れと言われた。

私が初めて太平山に登拝したのは二十才の時でした。岩見三内のバス車庫から歩いて、丸舞コースで頂上へ登り、奥宮に参拝して鉄笠を見つけて、被り始めたら数拾回被っても平気でいたら、田村宮司さんと鈴木藤吉さんに、又最初から被るよに言われて、百数拾回続けて被る事ができました。三吉霊神様の御神徳を戴いたものと思えます。

それから数年後の事です。神社から頼まれて、里宮から味噌八キ口、白米五升、野菜八キ口その他着替え等を背負い、前岳・中岳・



弟子帰岳・頂上に四時間位で届け宮司さんにびつくりされました。此の様な事ができたのは三吉霊神のお力を戴いたものと感謝致しております。

その後、秋田山岳会に入会を許され、神社行事の開山祭・登拝団閉山祭等に参加し、又頂上の一ノ鳥居に数年続けて、開山祭前の注連縄を奉納させて頂きました。宮司さんを始め職員の皆様、佐藤義雄さん、警備員の方々、山登りの友人の方々に長年に渡りお世話になり、誠に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも後世に渡り、色々な形で信仰の尊さを、真心を持って日々良く精進してまいりたい所存であります。

誠にありがとうございます。

# 奉納者芳名

一、前岳神山神社神璽一式

赤沼講中 様

一、黒塗三方

大槻 慈照 様

一、奥宮神饌箱

一、御神火箱

伊藤建友株式会社 様



一、前岳竣功お祝い

佐々木栄一 様

晴山 吟太郎 様

佐藤 修水 様

越前 儀裕 様

長沢 源蔵 様

石黒 トシ 様

# 天童・三吉神社再建

山形県天童市久野本にある三吉神社がこのほど立派に再建竣功されました。

この新しい神社は、医療法人社団斗南会（理事長 秋野貞子）様のご尽力により、同会運営の施設内に建立され、今後施設地域の人々の心の依り処として、一層重要な役割が期待されております。



平成14年10月19日(土)  
午前9:00  
太平山三吉神社社務所集合

第17回

# 太平山写生会

## 秋田市のシンボル 太平山 をかこう!!

日 時 平成14年10月19日(土)  
**【雨天時10月27日(日)】**  
 午前9時～午後2時30分頃  
 集合場所 太平山三吉神社 社務所  
 参加申込 当日集合場所で受付けます。  
 参加対象 幼児、小・中学生、ご父兄  
 写生場所 太平山三吉神社 境内  
 写生対象 太平山および神社建物、境内からの景色など  
 様 式 水彩・クレヨン・パステルなど自由  
 持 ち 物 画版・昼食  
 (画用紙・飲物は準備しております。)  
 審 査 秋田市内小・中学校美術の先生  
 なお、作品は右記の会場にて展示さ

せて頂きます。優秀賞(20点程度)佳作(10点程度)に選ばれた方には、後日連絡の上、表彰状・賞品を差し上げます。  
 展示会場 秋田中央郵便局 秋田銀行 広面支店  
 北都銀行 広面支店  
 他を予定しています。  
 主 催 太平山三吉神社  
 協賛予定 秋田中央郵便局  
 NTT東日本秋田支店 秋田魁新報社  
 秋田銀行広面支店 北都銀行広面支店  
 (株)マルシン ペンてる(株)  
 そ の 他 参加者には記念品を差し上げます。  
 問 合 せ (834)3443 係鈴木まで

## 開山祭

本年度開山祭が七月十七日に行われ、里宮での神事後、菅野権禰直を先頭とする白装束に身を包んだ神人奉仕者二十一名により、無事御神体は奥宮へ遷御された。尚、本年は野田口が通行止めの為、軽井沢口よりの入山となった。



第三十九回

## 太平山に登ろう会

七月二十八日・二十九日の両日、恒例の登ろう会が開催され、総勢二十五名(参加者二十一名、サポート四名)が奥岳へ向かった。登山は初めての女子高校生から永年の崇敬者まで幅広い層にわたったが、天候にも恵まれ、快調に登山。神事後、懇親会で親睦を深め、翌日もケガ等もなく皆無事に下山された。数年ぶりに参加者も増え、非常に楽しい登拝となった。



## 講社祭

八月八日、地元はもとより各地から太平山講中、三吉講中の方々が集い講社大祭が行われた。近年は神社主催の敬神旅行においても県内各地の講中の方々と交流を図っており、「来年は是非我が方面へ」というお誘いもあり、三吉節が響く中、相互の親睦を深めた。

## 年未年始 巫女奉仕者募集!

今年も、年未年始社頭及び授与所において巫女のご奉仕を頂ける方を募集いたします。

当神社の顔として、神さまに仕え、参詣者と接する巫女奉仕は大変重要なおつとめであり、また奉仕者にとっても思い出に残るものとなります。

ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。(係 鈴木)

奉仕対象：高校生以上の女性

奉仕日：年未年始都合の良い日

事前に提出頂く書類及び面接がございます。

希望者多数の場合は、ご奉仕頂けない場合がございます。



## 行事日程一覧

10月1日(火)	11時	印章供養祭	感謝を込めて印鑑を供養するお祭
10月15日(火)	11時	人形感謝祭	愛着ある人形に感謝を込めてお焚き上げする神事 (人形は10月1日よりお預かり致します)
10月16日(水)	18時	秋季例大祭宵宮祭	次頁参照
10月17日(木)	11時	秋季例大祭当日祭	
11月中旬		大麻守札頒布式	翌年度お祀りするお札・お守りを祓い清める神事
11月23日(土)	10時	新嘗祭	五穀の収穫に感謝する祭典
12月13日(金)	10時	煤払い式	境内建物のすすを払う年末恒例行事
12月31日(火)	14時	師走の大祓式	清々しく新年を迎えられるように、一年の罪 けがれを祓い清める神事

毎月8日・17日は月次祭(午前10時)がございます。  
各祭典ともどなたでもご参列頂けます。お気軽にお問い合わせ下さい。

## 神社ホームページ掲載開始!

皆様から開設のご要望が多かった当社社のホームページが立ち上がりました。

アドレス <http://www.miyoshi.or.jp>

内容

神社の由緒や境内・資料館の写真、神事行事の内容、神社のお参りのしかた、太平山に関する案内・写真、子ども向け案内など。

今後は社報や各種行事の報告など随時更新してまいります。

まだまだ不完全な状態ですので、ご意見・ご要望などお気軽にお寄せ下さい。また、太平山や各祭典、行事の写真などを募集しておりますので、宜しく願い申し上げます。(係 田辺)



(社)秋田青年会議所 Kid's Page コンテスト佳作受賞

上記のHPの子ども向けページが、『地域の教育力向上』を主眼とした(社)秋田青年会議所の創立50周年事業において、佳作を受賞いたしました。小中学校の総合学習などで役立てて頂けるように、今後内容の充実を図ってまいりたいと思います。

# 秋季例大祭のご案内

恒例により平成十四年度秋季例大祭を左記の通り斎行いたします。

ご家族、お仲間同士お誘い合わせの上、多数ご参列を賜りますようお願い申し上げます。

記

## 宵宮祭

十月十六日(水)

午後六時

## 例大祭

十月十七日(木)

午前十一時

(各日とも、祭典後直会がございます。)

ご参列の方は、十月九日までに係(佐々木)までご連絡下さい。

### 《巫女舞》

(十六日) 浦安の舞

(十七日) 悠久の舞

### 《清興》

(十七日) 民謡シヨ一



## 太平山奥宮

### 山じまい

早いもので、今年も奥宮閉山の季節を迎えました。

8月異例の大雨は各登山道ばかりか里の河川流域にも大きな爪痕を残し、自然の力の大きさを改めて体感する夏となりました。

それだけに、僅かな晴れ間をぬって登山した小学生が「夏休みの感想文に山の思い出を書いた」といった話を聞くと嬉しくなります。苦しさを乗り越えた達成感と下界では味わえない清涼感、森の深さ、眺望……その素晴らしさや自然への畏敬・畏怖の念を忘れずに、いつか自分の子どもの手を引いて山へ登るような大人に成長してほしいと願わずにいられます。

一神社の力では到底運営できない山。多くの方々のお力添えを戴いたことに心より感謝申し上げます。

## 祝 七 五 三

当社では、本年も3才、5才の男児及び3才、7才の女兒のお祝いの七五三参りを下記の期間随時とり行います。ご家族お揃いでお祝い下さい。

期 日 9月~11月中

時 間 朝8:30~夕方5:00(予約不要)

(期間・時間外にご希望の方は予めご連絡下さい)

広面小学校通りの大駐車場をご利用下さい。

